

# 泥土リサイクル事例



令和5年4月

資源循環型社会を創造。



一般社団法人 泥土リサイクル協会

<http://www.deido-recycling.jp>

μττb:\mmm\*q6iqo-16cλc|iuā·|b

## 泥土リサイクル施工事例

No.	対象泥土	利用形態	利用用途	発注機関
1	地盤改良工事排泥	自ら利用	道路路床	愛知県
2	連続地中壁工事排泥	有償売却	道路路体	NEXCO中日本
3	連続地中壁工事排泥	有償売却	場内盛土	愛知県
4	ため池浚渫土砂	自ら利用	場内盛土	浜松市
5	地盤改良工事排泥	自ら利用	道路路床	仙台市交通局
6	連続地中壁工事排泥	自ら利用	場内盛土	一宮市
7	鋼管ソイルセメント杭余剰泥土	自ら利用 個別指定	橋脚基礎 埋戻し	中部地方整備局 岐阜国道事務所
8	地盤改良工事排泥	自ら利用	埋戻し	東京電力(株)
9	河川浚渫土砂	再利用	堤体盛土	関東地方整備局 荒川下流河川事務所
10	泥土圧シールド排泥	自ら利用	場内盛土	下水道事業団
11	連続地中壁工事排泥	自ら利用	埋戻し	九州電力(株)
12	漁港内浚渫土砂	再利用	公園盛土	北海道開発局
13	連続地中壁工事排泥	自ら利用	場内盛土	中部電力(株)
14	津波堆積土浚渫土砂	再利用	農地嵩上げ	宮城県農業農村事業部
15	連続地中壁工事排泥	発注者主導型 自ら利用	他工事盛土	岩手県

# 泥土リサイクル事例1 (地盤改良工事排泥)

対象原泥	発生種別	地盤改良工事排泥	連続地中壁工事排泥	泥土圧シールド排泥	浚渫工事土砂
	発生土区分	建設汚泥	浚渫土		
泥土性状	泥土種別	自硬性	非自硬性		
	含水比	原泥 200~300% → 貯泥・調泥後 100~120%			
	土質区分	粘性土	砂質シルト	砂質土	
	有機質	含有なし	強熱減量5%未満	強熱減量5~15%未満	強熱減量15%以上
利用区分	利用用途	盛土	埋戻し	道路路体(路床)	植生土壌
	利用形態	自ら利用	個別指定	有償売却	残土利用
要求品質	品質区分	第1種処理土	第2種処理土	第3種処理土	第4種処理土
	pH	特になし	中性		
	強度発現	1日	3日	7日	28日
	再泥化	制限あり	制限なし		
処理方法	施工方法	安定処理	スラリー化安定処理	脱水処理	
	工法名	イーキューブシステム	TAST工法		
使用固化材	高分子凝集剤	水溶性高分子凝集剤	←市販品		
	同上使用量	2kg	←現状換算 約20kg		
	固化材	アッシュスター	エコハード	ハーデン	有機質対応型
	同上使用量	150kg			
リサイクル量	日平均施工量	150m <sup>3</sup>			
	総量	5,000m <sup>3</sup>			

## 【概要説明】

地盤改良工事である高圧噴射攪拌工法によって排出された廃泥 30,000m<sup>3</sup>の内、5,000m<sup>3</sup>を自ら利用にて場内仮設道路の軟弱な道路路床と置き換えて利用した。(設計変更)



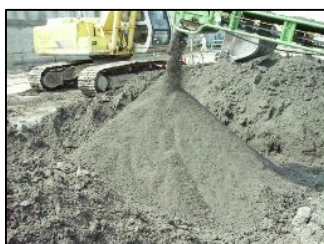
原泥



調泥後投入状況



施工状況



処理完了



拉状状態

## 泥土リサイクル事例2 (SMW工事排泥)

対象原泥	発生種別	地盤改良工事排泥	連続地中壁工事排泥	泥土圧シールド排泥	浚渫工事土砂
	発生土区分	建設汚泥	浚渫土		
泥土性状	泥土種別	自硬性	非自硬性		
	含水比(%)	原泥 100~120% → 貯泥・調泥後 80~90%			
	土質区分	粘性土	砂質シルト	砂質土	
	有機質	含有なし	強熱減量5%未満	強熱減量5~15%未満	強熱減量15%以上
利用区分	利用用途	盛土	埋戻し	道路路体(路床)	植生土壌
	利用形態	自ら利用	個別指定	有償売却	残土利用
要求品質	品質区分	第1種処理土	第2種処理土	第3種処理土	第4種処理土
	pH	特になし	中性		
	強度発現	1日	3日	7日	28日
	再泥化	制限あり	制限なし		
処理方法	施工方法	安定処理	スラリー化安定処理	脱水処理	
	工法名	イーキューブシステム	TAST工法		
使用固化材	高分子凝集剤	S-1T			
	同上使用量(kg)	13~15kg			
	固化材	アッシュスター	エコハード	ハーデン	有機質対応型
	同上使用量(kg)	100~150kg			
リサイクル量	日平均施工量(m <sup>3</sup> )	100m <sup>3</sup>			
	総量(m <sup>3</sup> )	3,000m <sup>3</sup>	処理機構成	40m <sup>3</sup> 機 × 1台	

### 【概要説明】

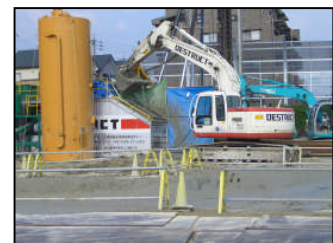
当初設計が産業廃棄物処分であったが、VE提案により隣接する工区の道路路体材として試験施工を経て確認し、有償売却により使用した。発注者から高い評価を得ている。



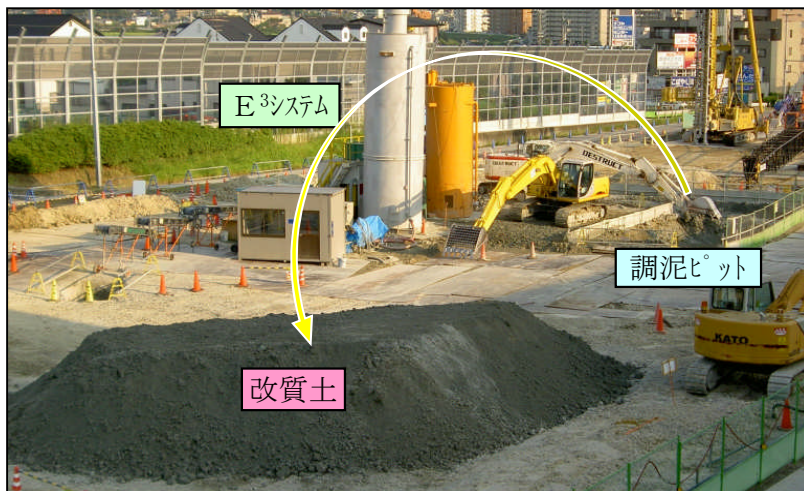
連続地中壁施工状況



原泥



調泥後投入状況



泥土リサイクル施工状況



処理完了

## 泥土リサイクル事例3 (TRD工事排泥)

対象原泥	発生種別	地盤改良工事排泥	連続地中壁工事排泥	泥土圧シールド排泥	浚渫工事土砂
	発生土区分	建設汚泥	浚渫土		
泥土性状	泥土種別	自硬性	非自硬性		
	含水比(%)	貯泥・調泥後 60~70%			
	土質区分	粘性土	砂質シルト	砂質土	
	有機質	含有なし	強熱減量5%未満	強熱減量5~15%未満	強熱減量15%以上
利用区分	利用用途	盛土	埋戻し	道路路体(路床)	植生土壌
	利用形態	自ら利用	個別指定	有償売却	残土利用
要求品質	品質区分	第1種処理土	第2種処理土	第3種処理土	第4種処理土
	pH	特になし	中性		
	強度発現	1日	3日	7日	28日
	再泥化	制限あり	制限なし		
処理方法	施工方法	安定処理	スラリー化安定処理	脱水処理	
	工法名	イーキューブシステム	TAST工法		
使用固化材	高分子凝集剤	S-1T			
	同上使用量(kg)	20kg			
	固化材	アッシュスター	エコハード	ハーデン	有機質対応型
	同上使用量(kg)	140kg			
リサイクル量	日平均施工量(m <sup>3</sup> )	150m <sup>3</sup>			
	総量(m <sup>3</sup> )	5,400m <sup>3</sup>			

### 【概要説明】

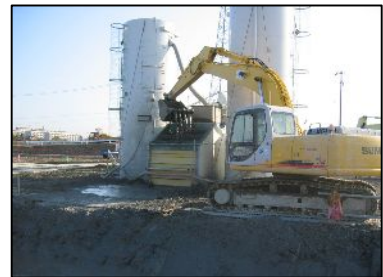
当初設計が産業廃棄物処分であったが、施工承諾にて工事地域内の盛土材料として流用した。利用形態はリサイクル資材認定制度である「あいくる材」として登録している「イーサンド」を有償売却とした。



連続地中壁施工状況



原泥



調泥後投入状況



処理土敷均し状況



盛土転圧完了

## 泥土リサイクル事例4（ため池浚渫土砂）

対象原泥	発生種別	地盤改良工事排泥	連続地中壁工事排泥	泥土圧シールド排泥	浚渫工事土砂
	発生土区分	建設汚泥	浚渫土		
泥土性状	泥土種別	自硬性	非自硬性		
	含水比(%)	原泥 130% 貯泥・調泥なし			
	土質区分	粘性土	砂質シルト	砂質土	
	有機質	含有なし	強熱減量5%未満	強熱減量5～15%未満	強熱減量15%以上
利用区分	利用用途	盛土	埋戻し	道路路体(路床)	植生土壌
	利用形態	自ら利用	個別指定	有償売却	残土利用
要求品質	品質区分	第1種処理土	第2種処理土	第3種処理土	第4種処理土
	pH	特になし	中性		
	強度発現	1日	3日	7日	28日
	再泥化	制限あり	制限なし		
処理方法	施工方法	安定処理	スラリー化安定処理	脱水処理	
	工法名	イーキューブシステム	TAST工法		
使用固化材	高分子凝集剤	S-1T			
	同上使用量(kg)	20kg			
	固化材	アッシュスター	エコハード	ハーデン	有機質対応型
	同上使用量(kg)	250kg			
リサイクル量	日平均施工量(m <sup>3</sup> )	60m <sup>3</sup>			
	総量(m <sup>3</sup> )	200m <sup>3</sup>	処理機構成	25m <sup>3</sup> 機×1台	

### 【概要説明】

造成工事内に設置している調整池内に堆積している土砂を処理し、造成工事内の盛土材料として利用。泥土は有機分を多く含んでいることから、有機質対応型固化材により所定の要求品質に対応した。



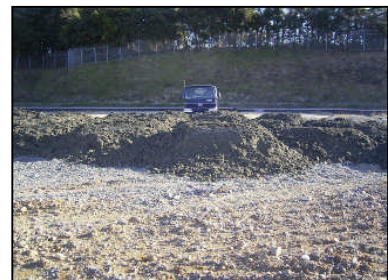
調整池堆積土砂浚渫状況



一次処理後泥土投入状況



処理完了



盛土撒き出し状況

## 泥土リサイクル事例5 (地盤改良工事排泥 S J工法)

対象原泥	発生種別	地盤改良工事排泥	連続地中壁工事排泥	泥土圧シールド排泥	浚渫工事土砂
	発生土区分	建設汚泥	浚渫土		
泥土性状	泥土種別	自硬性	非自硬性		
	含水比(%)	原泥 150~170% → 貯泥・調泥後 100~130%			
	土質区分	粘性土	砂質シルト	砂質土	
	有機質	含有なし	強熱減量5%未満	強熱減量5~15%未満	強熱減量15%以上
利用区分	利用用途	盛土	埋戻し	道路路体(路床)	植生土壌
	利用形態	自ら利用	個別指定	有償売却	残土利用
要求品質	品質区分	第1種処理土	第2種処理土	第3種処理土	第4種処理土
	pH	特になし	中性		
	強度発現	1日	3日	7日	28日
	再泥化	制限あり	制限なし		
処理方法	施工方法	安定処理	スラリー化安定処理	脱水処理	
	工法名	イーキューブシステム	TAST工法		
使用固化材	高分子凝集剤	S-1T			
	同上使用量(kg)	20kg			
	固化材	アッシュスター	エコハード	ハーデン	有機質対応型
	同上使用量(kg)	120kg			
リサイクル量	日平均施工量(m <sup>3</sup> )	100m <sup>3</sup>			
	総量(m <sup>3</sup> )	400m <sup>3</sup>			

### 【概要説明】

地盤改良工事の排泥を処理し、同工事内の路体材料として利用できるか試験工事として実施した。その成果が評価され、本体工事の標準設計として採用された。



地盤改良工事施工状況



貯泥状況



泥土処理状況



ベルコン搬出状況

## 泥土リサイクル事例6 (TRD工事排泥)

対象原泥	発生種別	地盤改良工事排泥	連続地中壁工事排泥	泥土圧シールド排泥	浚渫工事土砂
	発生土区分	建設汚泥	浚渫土		
泥土性状	泥土種別	自硬性	非自硬性		
	含水比(%)	原泥 80% → 貯泥・調泥後 50~60%			
	土質区分	粘性土	砂質シルト	砂質土	
	有機質	含有なし	強熱減量5%未満	強熱減量5~15%未満	強熱減量15%以上
利用区分	利用用途	盛土	埋戻し	道路路体(路床)	植生土壌
	利用形態	自ら利用	個別指定	有償売却	残土利用
要求品質	品質区分	第1種処理土	第2種処理土	第3種処理土	第4種処理土
	pH	特になし	中性		
	強度発現	1日	3日	7日	28日
	再泥化	制限あり	制限なし		
処理方法	施工方法	安定処理	スラリー化安定処理	脱水処理	
	工法名	イーキューブシステム	TAST工法		
使用固化材	高分子凝集剤	S-1T			
	同上使用量(kg)	12kg			
	固化材	アッシュスター	エコハード	ハーデン	有機質対応型
	同上使用量(kg)	100kg			
リサイクル量	日平均施工量(m <sup>3</sup> )	50m <sup>3</sup>			
	総量(m <sup>3</sup> )	2,300m <sup>3</sup>			

### 【概要説明】

コスト低減策として自ら利用による建設汚泥リサイクルとして事前設計に盛り込まれた。  
利用目的は場内の盛り土材料として利用。



連続地中壁施工状況



調泥後投入状況



処理完了



仮置き状況



## 泥土リサイクル事例7 (鋼管ソイルセメント杭余剰泥土)

対象原泥	発生種別	地盤改良工事排泥	連続地中壁工事排泥	基礎杭工事排泥	浚渫工事土砂
	発生土区分	建設汚泥	浚渫土		
泥土性状	泥土種別	自硬性	非自硬性		
	含水比(%)	原泥 100% → 貯泥・調泥後 50~60%			
	土質区分	粘性土	砂質シルト	砂質土	
	有機質	含有なし	強熱減量5%未満	強熱減量5~15%未満	強熱減量15%以上
利用区分	利用用途	盛土	埋戻し	道路路体(路床)	植生土壌
	利用形態	自ら利用	個別指定	有償売却	残土利用
要求品質	品質区分	第1種処理土	第2種処理土	第3種処理土	第4種処理土
	pH	特になし	中性		
	強度発現	1日	3日	7日	28日
	再泥化	制限あり	制限なし		
処理方法	施工方法	安定処理	スラリー化安定処理	脱水処理	
	工法名	イーキューブシステム	TAST工法		
使用固化材	高分子凝集剤	S-1T			
	同上使用量(kg)	10kg			
	固化材	アッシュスター	エコハード	ハーデン	有機質対応型
	同上使用量(kg)	130kg			
リサイクル量	日平均施工量(m <sup>3</sup> )	50m <sup>3</sup>			
	総量(m <sup>3</sup> )	1,940m <sup>3</sup>	処理機構成	40m <sup>3</sup> 機 × 1台	

### 【概要説明】

近隣地区に中間処理施設がないため県境を越えての産業廃棄物処理となり、処理費が高騰していた。発注者側からの要請で取り上げられ自ら利用にて場内の橋脚下部の埋戻し材として利用。



鋼管ソイルセメント  
杭施工状況



調泥前排泥状況



調泥後投入状況



処理完了

## 泥土リサイクル事例8 (地盤改良工事 排泥大量排出)

対象原泥	発生種別	地盤改良工事排泥	連続地中壁工事排泥	基礎杭工事排泥	浚渫工事土砂
	発生土区分	建設汚泥	浚渫土		
泥土性状	泥土種別	自硬性	非自硬性		
	含水比(%)	原泥 100% → 貯泥・調泥後 50~60%			
	土質区分	粘性土	砂質シルト	砂質土	
	有機質	含有なし	強熱減量5%未満	強熱減量5~15%未満	強熱減量15%以上
利用区分	利用用途	盛土	埋戻し	道路路体(路床)	植生土壌
	利用形態	自ら利用	個別指定	有償売却	残土利用
要求品質	品質区分	第1種処理土	第2種処理土	第3種処理土	第4種処理土
	pH	特になし	中性		
	強度発現	1日	3日	7日	28日
	再泥化	制限あり	制限なし		
処理方法	施工方法	安定処理	スラリー化安定処理	脱水処理	
	工法名	イーキューブシステム	TAST工法		
使用固化材	高分子凝集剤	S-1T			
	同上使用量(kg)	12kg			
	固化材	アッシュスター	エコハード	ハーデン	有機質対応型
	同上使用量(kg)	80~100kg			
リサイクル量	日平均施工量(m <sup>3</sup> )	450m <sup>3</sup>	日最大施工量	1,600m <sup>3</sup>	
	総量(m <sup>3</sup> )	35,000m <sup>3</sup>	処理機構成	40m <sup>3</sup> 機×2台・25m <sup>3</sup> 機×1台	

### 【概要説明】

近隣地区に大量の建設汚泥を処理する施設がないことから、自ら利用として有効利用できる技術として採用され、工事費の低減も併せて実現した。利用目的は場内の埋め戻し材として利用。



地盤改良 (SJ-M) 施工状況



調泥後投入状況



40m<sup>3</sup>ユニット型処理プラント全



処理土運搬・敷き均し状況

## 泥土リサイクル事例9 (河川浚渫土砂)

対象原泥	発生種別	地盤改良工事排泥	連続地中壁工事排泥	泥土圧シールド排泥	浚渫工事土砂
	発生土区分	建設汚泥	浚渫土		
泥土性状	泥土種別	自硬性	非自硬性		
	含水比(%)	原泥 110% 貯泥・調泥なし			
	土質区分	粘性土	砂質シルト	砂質土	
	有機質	含有なし	強熱減量5%未満	強熱減量5~15%未満	強熱減量15%以上
利用区分	利用用途	盛土	埋戻し	道路路体(路床)	植生土壌
	利用形態	自ら利用	個別指定	有償売却	残土利用
要求品質	品質区分	第1種処理土	第2種処理土	第3種処理土	第4種処理土
	pH	特になし	中性		
	強度発現	1日	3日	7日	28日
	再泥化	制限あり	制限なし		
処理方法	施工方法	安定処理	スラリー化安定処理	脱水処理	
	工法名	イーキューブシステム	TAST工法		
使用固化材	高分子凝集剤	S-1T			
	同上使用量(kg)	10kg			
	固化材	アッシュスター	エコハード	ハーデン	有機質対応型
	同上使用量(kg)	120kg			
リサイクル量	日平均施工量(m <sup>3</sup> )	240m <sup>3</sup>			
	総量(m <sup>3</sup> )	5,000m <sup>3</sup>			

### 【概要説明】

本工事は、「公共工事等における新技術活用システム実施要領」、「新技術情報提供システム(NETIS)登録申請書の実施規約」に基づき、「試行申請型」によりイーキューブシステムを荒川下流管内の浚渫土の改良工事に試行するものである。

改良土は河川護岸用の盛土材に流用できる品質に改良し、高水敷に仮置きする。



**一次処理(ゴミ除去)状**



**浚渫土砂調泥状況**



**改良状況**



**改良土仮置き状況**

## 泥土リサイクル事例10 (泥土圧シールド排泥処理工事 排泥大量排出)

対象原泥	発生種別	地盤改良工事排泥	連続地中壁工事排泥	基礎杭工事排泥	泥土圧シールド排泥
	発生土区分	建設汚泥	浚渫土		
泥土性状	泥土種別	自硬性	非自硬性		
	含水比(%)	原泥 100% → 貯泥・調泥後 50~60%			
	土質区分	粘性土	砂質シルト	砂質土	
	有機質	含有なし	強熱減量5%未満	強熱減量5~15%未満	強熱減量15%以上
利用区分	利用用途	盛土	埋戻し	道路路体(路床)	植生土壌
	利用形態	自ら利用	個別指定	有償売却	残土利用
要求品質	品質区分	第1種処理土	第2種処理土	第3種処理土	第4種処理土
	pH	特になし	中性		
	強度発現	1日	3日	7日	28日
	再泥化	制限あり	制限なし		
処理方法	施工方法	安定処理	スラリー化安定処理	脱水処理	
	工法名	イーキューブシステム	TAST工法		
使用固化材	高分子凝集剤	S-1T			
	同上使用量(kg)	5kg			
	固化材	アッシュスター	エコハード	ハーデン	有機質対応型
	同上使用量(kg)	60kg			
リサイクル量	日平均施工量(m <sup>3</sup> )	250m <sup>3</sup>	日最大施工量	350m <sup>3</sup>	
	総量(m <sup>3</sup> )	13,600m <sup>3</sup>	処理機構成	泥土処理専用機 1台	

### 【概要説明】

泥土圧シールド工事から排出される掘削土砂を天日乾燥し、場内利用する予定であったが、天日乾燥では要求品質が満足できないことから本技術が採用された。安定した要求品質の確保ならびに工事費の低減も併せて実現した。



泥土圧シールド掘削排泥状況



天日乾燥状況



処理プラント全景



処理土運搬・仮置き状況

# 泥土リサイクル事例11 (地盤改良工事 非自硬性、自硬性)

対象原泥	発生種別	プロジェクト(地盤改良)	地盤改良工(改良工)	基礎杭工事排泥	浚渫工事土砂
	発生土区分	建設汚泥	浚渫土		
泥土性状	泥土種別	非自硬性	非自硬性		
	含水比(%)	150~350%	100~180%		
	土質区分	粘性土	粘性土	砂質土	
	有機質	含有なし	含有なし	強熱減量5~15%未満	強熱減量15%以上
利用区分	利用用途	盛土	埋戻し	道路路体(路床)	植生土壌
	利用形態	自ら利用	自ら利用	有償売却	残土利用
要求品質	品質区分	第1種処理土	第2種処理土	第3種処理土	第4種処理土
	pH	特になし	特になし		
	強度発現	7日	7日	7日	28日
	再泥化	制限あり	制限あり		
処理方法	施工方法	安定処理	安定処理	脱水処理	
	工法名	粒状固化	粒状固化		
使用固化材	高分子凝集剤	S-1T	S-1T		
	同上使用量(kg)	15kg/m <sup>2</sup>	9kg/m <sup>2</sup>		
	固化材	エコソイルα	エコソイルα	ハーデン	有機質対応型
	同上使用量(kg)	200kg	100kg/m <sup>2</sup>		
リサイクル量	日平均施工量(m <sup>3</sup> )	50m <sup>3</sup>	日最大施工量	150m <sup>3</sup>	
	総量(m <sup>3</sup> )	5,020m <sup>3</sup>	処理機構成	25m <sup>3</sup> 機×1台	

## 【概要説明】

立地条件から排泥処理費が高いことなどから、建設汚泥リサイクルの技術として採用された。「自ら利用」で、**流動化処理土**の主材料及び盛土材として利用された。排水は一切だしておらず、洗い水も全て汚泥同時に粒状固化した。



25m<sup>3</sup>/hユニット型処理フラント全



震動フルイ付き解泥機



貯泥槽 (水槽25m<sup>3</sup>×6槽)



流動化処理フラント

## 泥土リサイクル事例12 (漁港内浚渫土砂)

対象原泥	発生種別	地盤改良工事排泥	連続地中壁工事排泥	泥土圧シールド排泥	浚渫工事土砂
	発生土区分	建設汚泥	浚渫土		
泥土性状	泥土種別	自硬性	非自硬性		
	含水比(%)	原泥 150% 貯泥・調泥なし(デカンタによる処理後の残渣物)			
	土質区分	粘性土	砂質シルト	砂質土	
	有機質	含有なし	強熱減量5%未満	強熱減量5~15%未満	強熱減量15%以上
利用区分	利用用途	盛土	埋戻し	道路路体(路床)	植生土壌
	利用形態	自ら利用	個別指定	有償売却	残土利用
要求品質	品質区分	第1種処理土	第2種処理土	第3種処理土	第4種処理土
	pH	特になし	中性		
	強度発現	1日	3日	7日	28日
	再泥化	制限あり	制限なし		
処理方法	施工方法	安定処理	スラリー化安定処理	脱水処理	
	工法名	イーキューブシステム	TAST工法		
使用固化材	高分子凝集剤	S-1T			
	同上使用量(kg)	15kg			
	固化材	アッシュスター	エコハード	ハーデン	有機質対応型
	同上使用量(kg)	170kg			
リサイクル量	日平均施工量(m <sup>3</sup> )	190m <sup>3</sup>			
	総量(m <sup>3</sup> )	5,000m <sup>3</sup>	処理機構成	40m <sup>3</sup> 機×1台	

### 【概要説明】

本工事は、ポンプ浚渫による浚渫土砂のうち砂分を分級により除去し、薬剤によって凝集沈殿後サイクロン脱水により含水比を低下(100%程度)させた泥土を粒状固化処理する工事である。改良土は近接地域で盛土材として利用。



砂分級



施工ヤード全景



固化処理プラント



改良土仮置き状況

## 泥土リサイクル事例13 (連続地中壁工事・地盤改良工事)

対象原泥	発生種別	連続地中壁	地盤改良工(改良工)	基礎杭工事排泥	浚渫工事土砂
	発生土区分	建設汚泥	浚渫土		
泥土性状	泥土種別	自硬性	非自硬性		
	含水比(%)	150~200%			
	土質区分	粘性土	砂質シルト	砂質土	
	有機質	含有なし	強熱減量5%未満	強熱減量5~15%未満	強熱減量15%以上
利用区分	利用用途	盛土	埋戻し	道路路体(路床)	植生土壌
	利用形態	自ら利用	個別指定	有償売却	残土利用
要求品質	品質区分	第1種処理土	第2種処理土	第3種処理土	第4種処理土
	pH	特になし	中性		
	強度発現	1日	3日	7日	28日
	再泥化	制限あり	制限なし		
処理方法	施工方法	安定処理	スラリー化安定処理	脱水処理	
	工法名	イーキューブシステム	TAST工法		
使用固化材	高分子凝集剤	S-1T			
	同上使用量(kg)	12kg/m <sup>2</sup>			
	固化材	アッシュスター	エコハード	ハーデン	有機質対応型
	同上使用量(kg)	125kg			
リサイクル量	日平均施工量(m <sup>3</sup> )	120m <sup>3</sup>	日最大施工量	200m <sup>3</sup>	
	総量(m <sup>3</sup> )	20,000m <sup>3</sup>	処理機構成	40m <sup>3</sup> 機×1台	

### 【概要説明】

連続地中壁工事から排出された排泥をデカンタにより脱水処理し、その残差物を粒状固化した。排出泥土の全量が「自ら利用」にて場内盛土の主材料として利用された。  
また、同時に行われていた地盤改良工事、シールド工事の排泥も併せて処理し、有効利用された。



排泥-貯泥調泥処理状況



40m<sup>3</sup>/hユニット型処理プラント全



処理後状態

泥土リサイクル事例 15 (地盤改良工事) ※発注者主導型自ら利用

対象原泥	発生種別	連続地中壁	地盤改良工 (改良工)	基礎杭工事排泥	浚渫工事土砂
	発生土区分	建設汚泥	浚渫土		
泥土性状	泥土種別	自硬性	非自硬性		
	含水比 (%)	80~150%			
	土質区分	粘性土	砂質シルト	砂質土	
	有機質	含有なし	強熱減量5%未満	強熱減量5~15%未満	強熱減量15%以上
利用区分	利用用途	盛土	埋戻し	道路路体(路床)	植生土壌
	利用形態	自ら利用	個別指定	有償売却	残土利用
要求品質	品質区分	第1種処理土	第2種処理土	第3種処理土	第4種処理土
	pH	特になし	中性		
	強度発現	1日	3日	7日	28日
	再泥化	制限あり	制限なし		
処理方法	施工方法	安定処理	スラリー化安定処理	脱水処理	
	工法名	イーキューブシステム	TAST工法		
使用固化材	高分子凝集剤	S-1T			
	同上使用量 (kg)	12kg/m <sup>3</sup>			
	固化材	アッシュスター	ガイリンアースCR	ハーデン	有機質対応型
	同上使用量 (kg)	60kg			
リサイクル量	日平均施工量(m <sup>3</sup> )	140m <sup>3</sup>	日最大施工量	200m <sup>3</sup>	
	総量 (m <sup>3</sup> )	4,700m <sup>3</sup>	処理機構成	40m <sup>3</sup> 機×1台	

【概要説明】

地盤改良工事から排出された排泥をバキューム車により貯泥ピットに運搬し、粒状固化した。建設汚泥処理土は、発注者主導型の自ら利用として他工事の盛土材料として利用された。



地盤改良工事



バキューム車による泥土運搬



排泥-貯泥調泥処理状況



固化処理プラント